

令和4年度 秋田県水と緑の森づくり税事業 第4期5箇年計画策定工程表

資料4

項目	R3	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考		
県議会							次期計画の骨子 (基本方向)を 説明		次期計画の素案を 説明			次期計画の最終案 を説明				
基金運営委員会	次期計画の方向性 を検討			次期計画の骨子 (基本計画) (案)を検討			次期計画の 素案を検討			次期計画の 最終案を検討			次期計画の 最終案を報告			
県民・企業	アンケートを 実施			随時、意見を収集					説明会の開催 パブリックコメント を実施					次期計画の 公表		
市町村	アンケートを 実施	意見交換を実施														
ボランティア団体	アンケートを 実施															
計画書の作成状況ほか	①アンケート結果 等のとりまとめ ②次期計画の方向 性の作成	①基金運営委員会・意見交換の意 見を集約・反映 ②各事業に関する現状と課題を整理 ③新たな税事業の編成及び新規事			①各事業の事業量・事業費の詳細 決定 ②想定問の作成		説明会の資料 作成及び準備	素案の作成		最終案の作成		公表の準備				

秋田県水と緑の森づくり税事業 次期計画の方向性（骨子案）について

1 水と緑の森づくり事業（ハード事業 H30～R4） ～ 森林環境や公益性を重視した森づくり ～

事業名	事業内容	5カ年計画 目標事業量	5カ年計画 事業実績(見込)	計画策定に向けたポイント
● 豊かな森づくり(豊かな里山林整備事業)				
針広混交林化事業	生育の思わしくないスギ人工林を公益的機能の高い広葉樹との混交林へ誘導	500ha	358ha	・森林環境譲与税の使途との調整
広葉樹林再生事業	過去に損なわれた森林環境を取り戻し、野生動物などが生息・生育できる生態系の健全性に配慮した広葉樹林の再生を実施	100ha	76ha	—
緩衝帯等整備事業	クマ等の野生動物が出没し、人的な被害などのおそれのある森林において緩衝帯を整備し、野生動物の出没の抑制を図る。 主要道路や通学路沿いの藪化・過密化している森林を整備し、景観の向上を図る。	150ha	670ha	・野生動物出没の抑制 ・災害リスクの軽減 (造林未済地対策・若返り)
● 美しい森づくり(マツ林・ナラ林等景観向上事業)				
マツ林・ナラ林等景観向上事業	松くい虫及びカシノナガキクイムシ被害により枯れたマツやナラ林等で、景観維持や安全面に支障がある枯損木の伐採と健全化に向けた植栽	(マツ林) 30,000㎡ (ナラ林) 30,000㎡	(マツ林) 25,362㎡ (ナラ林) 23,582㎡	・ナラ枯れ被害の予防
● ふれあいの森づくり(森と木のふれあい空間整備事業)				
ふれあいの森整備事業	「森林浴リフレッシュの森」、「湧水・名水の森」、「ボランティアの森」、「学びの森」の4つの視点で、森林とふれあえる拠点を整備	35箇所	32箇所	—
木育空間整備事業	街中で親子が木とふれあえる木育体験空間の整備	10箇所	15箇所	・森林環境譲与税の使途との調整

◆ 次期（R5～R9）計画 ◆

事業見直しの方向性
● 豊かな森づくり(豊かな里山林整備事業)
【針広混交林化事業】（縮小） ・生育の思わしくないスギ人工林を公益的機能の高い広葉樹との混交林へ誘導
【広葉樹林再生事業】（継続） ・過去に損なわれた森林環境を取り戻し、野生動物などが生息・生育できる生態系の健全性に配慮した広葉樹林の再生を実施
【緩衝帯等整備事業】（継続） ・クマ等の野生動物が出没し、人的な被害などのおそれのある森林において緩衝帯を整備し、野生動物の出没の抑制を図る。 ・主要道路や通学路沿いの藪化・過密化している森林を整備し、景観の向上を図る。
（要検討） ・再造林への取組のほか、山地災害リスクを低減する多様な森林へと誘導する取組を検討
● 美しい森づくり(マツ林・ナラ林等景観向上事業)
【マツ林・ナラ林等景観向上事業】 ・松くい虫及びカシノナガキクイムシ被害により枯れたマツやナラ林等で、景観維持や安全面に支障がある枯損木の伐採と健全化に向けた植栽 （拡充） ・森林公園等の森林に対し、被害を拡大させる可能性の高いナラ林の伐採による森林の若返り対策を実施
● ふれあいの森づくり(森と木のふれあい空間整備事業)
【ふれあいの森整備事業】（継続） ・「森林浴リフレッシュ・健康づくりの森」、「湧水・名水の森」、「森林ボランティアの森」、「学びの森」の4つの視点で、森林とふれあえる拠点を整備
【木育空間整備事業】（縮小） ・街中で親子が木とふれあえる木育体験空間の整備

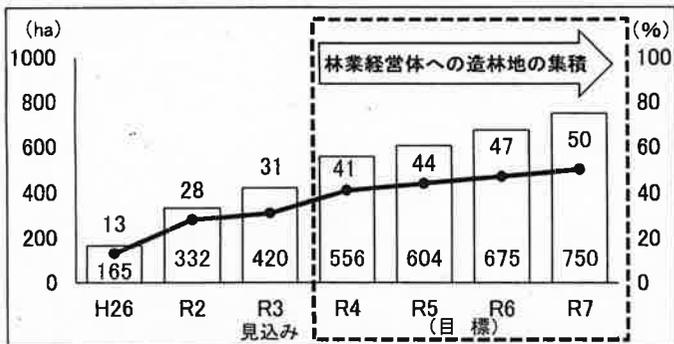
2 水と緑の森づくり推進事業（ソフト事業 H30～R4） ～ 県民参加の森づくり ～

事業名	事業内容	5カ年計画 目標事業量	5カ年計画 事業実績(見込)	計画策定に向けたポイント
● みんなでつくる森づくり				
県民参加の森づくり事業	・森づくり活動を行っている森林ボランティア団体の活動への支援(100件) ・県民の自由な発想による森づくり活動等への支援(150件) ・市町村等による森づくり活動や森づくりに関する普及活動への支援(50件)	300件	301件	・森林環境譲与税の使途との調整
森林環境教育推進事業	・児童や生徒等の森林環境教育活動への支援（250件） ・教員やボランティア指導者、保育士等を対象とした森林環境教育指導者の育成（200人） ・林業大学校で森林整備を担う若い人材の育成等（90人）	250件 290人	248件 386人	・森林環境譲与税の使途との調整
普及啓発事業	・森林祭等の開催、水と緑の森づくり税HPの運営 ・あきた森づくりサポートセンターの運営 ・基金運営委員会の設置及び調査・審議 ・森林環境の調査及び事業効果の調査・検証 など	10,000人	10,938人	—

◆ 次期（R5～R9）計画 ◆

事業見直しの方向性
● みんなでつくる森づくり
・森林ボランティア団体、県民提案、各種団体等による県民参加の森づくり活動を引き続き支援 ①森林ボランティア団体支援 ②県民提案による森づくり活動支援 ③市町村等による森づくり活動支援（縮小）
・児童や生徒等の森林環境教育活動への支援 ・教員やボランティア指導者、保育士等を対象とした森林環境教育指導者の育成 ・林業大学校で森林整備を担う人材の育成等（廃止）
・森林祭等の開催、水と緑の森づくり税HPの運営 ・あきた森づくりサポートセンターの運営 ・基金運営委員会の設置及び調査・審議 ・森林環境の調査及び事業効果の調査・検証 など

カーボンニュートラルに挑戦する再造林拡大事業の概要



【目標】

R2: 332ha (28%)
↓
R7: 750ha (50%)

対策1【仕組み】 林業経営体への造林地の集積

(1) 造林地集積促進事業、(2) 造林マスター育成事業

課題

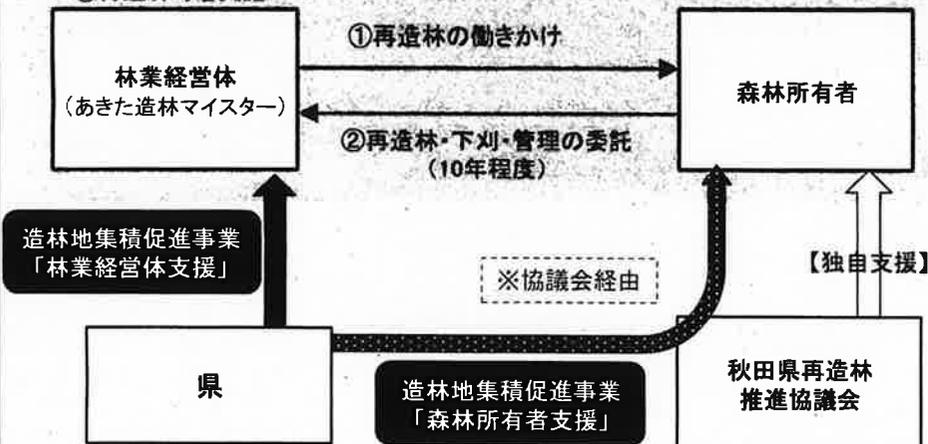
- ・採算性の低迷で、再造林意欲が減退
⇒ 再造林経費の負担軽減が必要
- ・再造林後の保育管理が不安
⇒ 将来不安の解消が必要

解決策

- ・低コスト施業を行う林業経営体に造林地を集積
⇒ 10年程度の造林保育管理契約の締結
- ・森林所有者に再造林を働きかける人材を育成
⇒ 造林マスターの育成

【林業経営体による低コスト・省力再造林+保育管理】 ⇒ 負担感・不安感の解消

③再造林等を実施



対策2【技術】 低コスト・省力造林技術の開発・普及

(3) 先進的造林技術推進事業

- 実践フィールドを活用した
低コスト・省力造林技術の研修
- 新たな林業機械の導入に向けた実証 等



(下刈り機械)

対策3【種苗】 苗木の生産拡大と優良な苗木の品種開発

(4) 再造林優良種苗確保事業

- エリートツリー(スギ・カラマツ)等採種圃整備
- 苗木生産者による幼苗生産・育苗分業化の実証 等



(エリートツリー採種圃)

対策4【体制】 業界団体等と一体となった取組の推進

(5) あきたの森林若造り普及促進事業

- 秋田県再造林推進協議会「あきた未来へつなぐ造林運動」の推進
 - ・ 森林所有者への普及啓発(パンフレットの作成 等)
 - ・ 県民への発信による機運の醸成
(フォーラム・出前講座の開催 等)
- 流域単位での推進体制の構築 等



対策5【人材】 再造林を担う人材の確保・育成

別途事業「オール秋田で育てる」林業トップランナー養成事業 等

- 林業大学校等の造林技術研修の充実 等
 - ・ 低コスト・省力造林技術研修
 - ・ 造林機械化研修の新設



(林業大学校の研修)

ナラ枯れ被害の拡大への対応 ～マツ林・ナラ林等景観向上事業の見直し～

1 現状と課題

枯損木を伐採した1、2年後に、その周辺で新たなナラ枯れ被害が発生するケースが多く見られる。

なお、新たな被害は枯損木の周辺約30mの範囲で発生している。

2 対応方向（案）

これまでの取組（景観・安全確保のための枯損木の伐採）の他に、新たに、枯損木及び被害木と、その周辺30mのナラ枯れに罹患する危険性の高い健全木を併せて伐採する事業をメニューに追加し、被害拡大防止と森林の若返りを図る。

○追加メニューのイメージ

